

二〇一四年六月一七日 開催

## ベトナムの村人と共に歩む——涙あり、笑いありの地域づくり

伊能まゆ

■講演者……伊能まゆ(特定非営利活動法人 Seed 10  
Table 代表)

■司 会……岩井美佐紀(本学アジア言語学科教授)

本稿は二〇一四年六月一七日に神田外語大学にて発表させて頂いた内容をまとめたものである。まず、ベトナムの概要と農業や農村の課題を記述し、それらの課題に対し Seed 10 Table (以下、S T T と略す) が取り組んでいる活動を紹介する。最後に今後のベトナムの農村への支援や国際協力のあり方を展望する。

### 1. ベトナムの概要

ベトナムは人口が約九〇〇〇万人、国土面積が三二万九〇〇〇平方キロメートル、そして、南北に細長い国である。日本と異なり、ベトナムは五四の民族グループが暮らす多民族国家であり、中国の各王朝、フランス、アメリカなどと長期

にわたる戦争を戦いぬき、社会主義体制を維持してきた。本項では、主に現代の経済政策の変化と農村に住む人々の暮らしへの影響について記述する。

### 市場経済の導入と経済格差

ベトナムの近現代史は戦争につぐ戦争の歴史である。長期にわたる戦争によって、人々の暮らしは疲弊していたが、個人の自由な裁量によって生産・販売ができない計画経済が実践され、人々の労働意欲が減退し、生産性が低くなり、一九八〇年代には深刻な経済の停滞を招いた。この状況を打開すべく、一九八六年にドイモイ(刷新)政策が打ち出され、市場経済が導入された。自分の農地で収穫できた生産物を市場に売ることができるようになった農家は、生産意欲を強く刺激された。このことは、コメの輸入国であったベトナムが、一九八九年に実質的にコメを輸出し始めたことからもわかる。<sup>1)</sup>  
ドイモイ政策以降、二〇〇〇年代にかけて、ベトナムは目



伊能まゆ氏



司会の岩井美佐紀先生

覚しい経済発展を遂げた。例えば、一九九八年は海外からの直接投資額（以降、FDIと略す）が四八億ドル、輸出額は九三億ドルであったが、二〇〇八年にはそれぞれ六四〇億ドル、六二九億ドルにまで増加した。二〇〇八年に生じた食糧危機や金融危機の影響を受け、FDIや輸出額は減少したが、一人当たりのGDPでは一九九八年の三五九ドルから二〇一三年に一九六〇ドル<sup>(2)</sup>へと増えている。

この急激な経済成長の中で、新たな経済格差が生じた。特に山岳地域に住む少数民族や人口の六割を占める農家の暮ら

しを改善するため、ベトナム政府は飢餓撲滅・貧困削減のための国家目標プログラムに取り組み、海外からの支援事業も多く実施された。その結果、ベトナムの貧困率は一九九八年の三七%から二〇一三年には七・六%まで下がった<sup>(3)</sup>。確かに、各地域の農村を歩くと、インフラが整備され、物質的にも豊かになったと感じる。しかし、実際の農家の暮らしはどのようなだろうか。

## 農村における課題

ベトナムは世界有数の農産物輸出国であり、農業大国である。人口の七割が農村に住み、六割が農業を営むが、農家の多くは小規模経営だ。北部の红河デルタでは九二・四七％の農家の経営規模が〇・五ha未満であるが、土地を持たない世帯の割合は〇・七％に止まる。一方、南部のメコンデルタでは、三五・〇九％の農家の経営規模は〇・五ha未満、四〇・三九％の農家の経営規模は〇・五ha以上二ha未満であるが、土地を持たない世帯の割合は一四・二四％に上る<sup>4)</sup>。

小規模農家の多くは稲作や野菜栽培、家畜の肥育などを組み合わせており、個々の生産量は小さい。中間商人に直接農産物を販売しており、買取価格は低い。農薬等の値段が上昇している一方で、農産物の値段が低く利益が小さい。輸用の農産物は、生産から加工、販売にかかる一連の過程において品質を保つことができず、他国と競争できない品目が多い。一方、農地を持たない貧困層は日雇いの労働に出て生計を立てているが、労働日数が安定せず、生活は困難を極めている。さらに、農薬等の過剰利用などによって、食料や生活用水を得ていた自然資源が汚染され、利用できなくなってきた。こうした理由から、農村に住む多くの人々の暮らしは、むしろ、自然資源の汚染などによってリスクが高まっていると言える。

## 2. 農村の人々と共に歩む

これまで記述してきたベトナムの農村の課題に対して、S T Tがどのような目的と手法によって活動を実施しているのか、具体的にベトナム北部の山岳地域にあるホアビン省（省）は日本の都道府県にあたる）とベトナム南部のメコンデルタにあるベンチエ省を事例としてみていく。

まず、S T Tが目指していることは、人々の暮らしを支える自然資源、地域の伝統や文化、固有のタネなどを守り、活かしていくことで暮らしを豊かにしながら、それらを次世代に伝えていくことである。いかなれば、地域の資源を活用した「地域づくり」への支援である。「地域づくり」とは、その地域に住む人々が、外部から来た「よそ者」の視点や経験をうまく取り入れながら、自ら地域を良くしていくための活動を実践するプロセスである。そのため、S T Tは関わる地域の人々がどのように暮らしを改善していきたいのかを話し合い、「黒子」としてサポートできるように、協力方法を考え、実施している。

### ホアビン省タンラック郡での活動

ホアビン省タンラック郡はベトナムの首都ハノイより約一二五km離れた山岳地域にある。ムオン民族が人口の八五％を占めており、彼らは伝統的に水稲を植え、家畜を飼い、森

を上手に活かしながら、暮らしてきた。

近年、この地域では換金作物となるトウモロコシやサトウキビが栽培されるようになり、高収量が見込めるハイブリッド種と化学肥料や除草剤等が使われるようになった。そのため、過去一〇年の間に、多くの在来種が消え、川の汚染によって水浴びや洗濯ができなくなった。こうした現状の改善を望む各行政村（以降、村と記載する）の人民委員会（日本の村役場にあたる）や青年団、さらに農家のグループと共に様々な活動に取り組んできた。

まず、二〇〇九年より、在来の稲を守りたいと考えている村人のグループと共に各村で在来の稲の品種を調べた。村ごとに少なくとも二〇種類以上の在来種が過去に存在し、現在、二〜五種類が残っているが、多くが劣化で味や収量が以前よりも落ちていることがわかった。この結果から、村ごとに在来の稲の品種を選び、劣化しているタネの復元に取り組んだ。二〇一一年までに五種類の在来の稲の復元を終えた。二〇〇九年には一八世帯が取り組み、二〇一一年には一一三世帯に増え、現在も各世帯が在来の稲を植え続けている。

また、二〇一〇年より青年達と村の自然を調べ、記録し、それらを活かした観光コースづくりに取り組んでいる。例えば、村で使っている水がどこから来て、どのように活用され、汚水がどこへ流れていくのかを調べた。この調査後、ある村



水に棲む生き物の標本を作っている青年達

では、川の汚染を懸念し、トイレを設置するようになった。さらに、水や森に棲む生き物を調べ、標本や情報シートを製作したり、地元で取れる食材を用いた伝統的な料理コースを開発するなど、青年たちが自らガイドとなって村の魅力を紹介するための準備をしている。

さらに、二〇一一年より有志の農家グループが有機農業を実践し、自ら品質を管理し、流通業者や消費者と協力して生産物を販売する試みを開始した。現在、地豚、地鶏、ザボンが有機農法によって育てられ、市場価格より一五〜二〇%高く販売されている。さらに二〇一五年には野菜が販売される

見通しで、農家グループの数も増えている。今後は青年団と協働で環境に配慮した地域づくりを実践する地域として、ハノイなどへ紹介していく予定である。

### ベンチエ省ビンダイ郡での活動

ベンチエ省ビンダイ郡はホーチミン市より約一二〇km離れており、周囲をメコン川の支流に囲まれている。かつてはココナツ栽培と稲作が行われていたが、一五年ほど前よりエビの養殖や他の果樹栽培が盛んになり、多額の現金収入を得た農家と農地経営に失敗して土地を手放し、「土地なし層」になった元農家との経済的な格差が広がっている。また、農業等の過剰使用により、水源や土壌が汚染され、特に貧困層の暮らしに悪影響を及ぼしている。

S T Tはビンダイ郡にて二〇一〇年より土地を持たない貧困世帯や小規模農家を対象とした生計改善のための活動を実施してきた。まず、対象村に行政村と行政村を構成する集落の代表から成る「村づくり委員会」を設立し、彼らと共に計画を立て、実施する体制を整えた。活動の目的は、環境に負荷をかけず、貧困層や小規模農家の生活にかかる支出を減らし、現金収入を増やすことである。自宅周辺の小さな土地と在来の資源を活用しながらアヒルや鶏を育て、家庭菜園を営むための持続的農業技術研修を実施している。また、アヒル・

鶏銀行を設立し、貧困世帯が資金を借りられるようにしたり、支出入の管理を行う帳簿を支援し、帳簿の付け方について研修を行った。

しかし、全ての村の村づくり委員会や貧困世帯が同じように成果を得た訳ではなかった。アヒルや鶏のヒナ代を借りたのではなく、支援されたと勘違いした貧困世帯に対し、村づくり委員会がきちんと説明せず、結果として資本を回収できない村があった。また、アヒルが死亡したため、ヒナ代の返済を拒む世帯が出た。そのため、各村や貧困世帯に対して均等に支援を行うのではなく、アヒルや鶏の肥育で現金収入が上がった貧困世帯とアヒル・鶏銀行の運営をしっかりと行っている村づくり委員会に対し、優先的に支援を行うこととした。

例えば、アヒルや鶏の肥育で現金収入が増加した貧困世帯が、貧困から完全に脱却するために必要な次のステップについて、貧困世帯や村づくり委員会と話し合った。そして、アヒルや鶏の肥育規模を大きくしたり、牛銀行を設立してメスの牛を貸し出したり、乾季の水不足を軽減するための簡易貯水タンクを支援した。二〇一〇年から二〇一四年までに約九〇〇世帯が活動に参加し、現金収入が増加した世帯は三二%から七六%へと上昇した。

また、これまでに対象村以外の村や地域からも同様の活動を実施して欲しい、という希望が出されている他、貧困問題



帳簿の付け方を学んでいる貧困世帯



「牛銀行」から牛を借りている貧困世帯

を担当するベンチエ省労働・傷病兵・社会局が主催する会議に村づくり委員会が招聘され、他地域の代表へ経験を伝えたり、労働・傷病兵・社会局が同様の活動を実施することを検討するようになった。

この他、貧困層の中にベトナム戦争中にアメリカ軍によって散布された枯葉剤の影響による障害をもった人々も含まれていることから、各村の村づくり委員会と共に各世帯を訪問し、障害の度合いや家族構成などを勘案して、必要とされる支援を適宜、行っている。

### 3. 今後に向けて

ベトナムはドイモイ政策後、経済の建て直しと発展に邁進してきた。そして、二〇〇七年にW H Oへ加盟し、T P P（環太平洋戦略的経済連携協定）には早期に参加を表明するなど、国際的な枠組みの中で自国の経済を発展させようと努力し、国内で生じた経済格差や貧困問題にも真摯に取り組んできた。その努力は一部が実ったが、今後、国際的な競争が増す中で、自国の農業や農家の暮らしをどのように守り、発展させていくのが問われる。

人口の約六割を占める農家は、大部分が小規模経営である。ベトナムでは一般的に支援は規模が大きい方が良いとされ、物資の支援も好まれる傾向がある。しかし、小規模農家や貧困層にとって、必要なものは大金や機械ではない。お金と知識をどのように組み合わせるかで生計を立てていけば良いか。良質の農産物を作り、加工などで付加価値をつけるためには何が必要か。そういったソフトな部分への支援こそが必要とされている。

S T Tの活動はいずれも小規模・小額の支援であり、物資の支援よりも人々の能力向上を通じた地域の持続的な発展を目指している。この方法は時間がかかり、成果もすぐに見えないため、活動の本質的な意義をすぐに理解してもらえないことが多い。しかし、繰り返しになるが、「地域づくり」はその地域に住む人々が、一人ひとりの智慧と努力と少しのお金を出し合って、主体的に取り組まなければ、持続的な発展には繋がらない。急がば回れ。S T Tとベトナムの人々の長い道のりは始まったばかりである。

注

- (1) 岡江 「二〇〇九」 五七頁  
(2) ベトナム統計総局、労働・傷病兵・社会省、ジェトロ、

- (3) 世界銀行のホームページより引用  
ベトナム統計総局、労働・傷病兵・社会省、ジェトロ、  
世界銀行のホームページより引用  
(4) Tổng Cục Thống Kế [2012] p. 269-272

引用・参考文献

日本語文献

- 伊東正一 「二〇〇七」 「ベトナムのコメ経済及びコメ輸出メカニズム」 『平成一八年度海外農業情報分析事業アジア大洋州地域及び中国地域食糧農業情報調査分析検討事業実施報告書』 国際農林業協力・交流協会  
岡江恭史 「二〇〇九」 「カントリレポート：ベトナム——世界的な穀物価格高騰の背景となったコメ輸出入の動向——」 『平成二〇年度カントリレポート：中国、ベトナム』 行政対応特別研究「二国間」研究資料 第五号 農林水産政策研究所  
坂田正三編 「二〇一二」 『ベトナムの農村発展——高度経済成長下の農村経済の変容』 アジア経済研究所  
日本国外務省 [Online] 「ベトナム基礎データ」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html>  
日本貿易振興機構 [Online] 「ベトナム基礎情報・統計」

[http://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/basic\\_01/#block5](http://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/basic_01/#block5)

#### 英語文献

The World Bank [Online] Country Data of Vietnam

<http://data.worldbank.org/country/vietnam>

#### ベトナム語文献

Bộ Lao Động – Thương Binh và Xã Hội (ベトナム労働・傷病兵・社会省) [Online] <http://giaingheo.molisa.gov.vn/vn/News.aspx?CategoryId=56>

Tổng Cục Thống Kê (ベトナム統計総局) [2011]  
*Kết quả Tổng điều tra Nông thôn, Nông nghiệp và Thủy sản 2011* (2011年 農村・農業・水産業に関する総合調査結果) Nhà xuất bản Thống Kê (統計出版社)

Tổng Cục Thống Kê (ベトナム統計総局) [Online]  
[http://www.gso.gov.vn/default\\_en.aspx?tabid=491](http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=491)